資料 2

「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画（改訂版）」における計画年度および評価指標の見直しについて【考え方の整理（案）】

（１）

森構想を取り巻く状況

環境・社会情勢の変化

活動主体の状況の変化

行動計画に基づく取組の広がり

刻々と変化

（２）

状況が刻々と変化する中、また、多岐にわたる取組を、同一の期間で、かつ、代表的な指標で評価することは不可能

・森構想は長期にわたる取組であり、その内容も主体も多岐にわたっていることから、取組ごとに成果が発揮されるまでの期間は異なる。

・また、取組の成果については必ずしも量的な指標で図ることはできない。

・そのため、個別の取組ごとに進捗状況を確認することが望ましい。

（３）

PDCA サイクルに基づき、毎年度、取組ごとに進捗状況を確認し適宜見直しを行う

・個別の具体的取組について進捗状況を毎年確認する。

・森構想を取り巻く環境や活動主体の状況変化、進捗状況を踏まえて適宜見直しを行う。

進捗状況の確認方法（案）

・取組ごとに順調に進んでいるもの＝「○実施（完了 or 継続）」、課題が残るもの＝「△一部実施」、具体的な取組を実施出来ていないもの＝「×未実施」、新たな取組＝「◎新規」等を毎年確認し、特に下記について協議会で報告、協議する。

「△一部実施」⇒課題を整理し実施を目指す。

「×未実施」　⇒課題を整理し実施を目指す。もしくは必要に応じて取組内容の見直しを行う。

「◎新規」　⇒新たな取り組みの展開として報告し、今後の継続、展開を図る。